

第1章 計画の基本的な考え方

1.計画策定の背景と目的

国は、平成 29 年5月に自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的に「自転車活用推進法」を制定し、政府に自転車活用推進計画の策定を義務付けるとともに、市町村には、国や都道府県の自転車活用推進計画を勘案して区域の実情に応じた自転車活用推進計画を策定するよう努めなければならないと規定しました。これを受け、国は平成 30 年（2018）に「自転車活用推進計画」を策定し、令和3年（2021）に今後の社会の動向を見据えつつ、持続可能な社会の実現に向けた自転車の活用の推進を一層図るため、「第2次自転車活用推進計画」を閣議決定しています。

静岡県においても、「静岡県自転車活用推進計画」を平成 31 年（2019）に策定しています。その後、国の改定内容を反映した「第2次静岡県自転車活用推進計画」を策定し、サイクルスポーツの聖地に向けたビジョンを市町や県民と共有しながら、ハード・ソフトの施策を総合的に進める指針となる計画として位置付けています。

また、自転車は、買い物や通勤、通学等、日常生活における身近な移動手段であるとともに、サイクルスポーツや自転車利用による健康の増進も期待され、二酸化炭素の排出、騒音、排気ガスの排出が無い「環境にやさしい」乗り物として、近年、自転車利用のニーズが高まっています。

このような現状を踏まえ、本市においても「自転車でつながる健康都市“ふじえだ”」を基本理念とし、自転車の活用による環境負荷の低減、市民の健康増進、観光・スポーツ施策との連携など様々な課題に対応する必要があります。そこで、交通安全を図りつつ自転車の活用や利用の促進を総合的かつ計画的に推進することを目的とし、各施策を定めた「藤枝市自転車活用推進計画」を策定します。

2.計画の対象地域

計画の対象地域は、「藤枝市全域」とします。

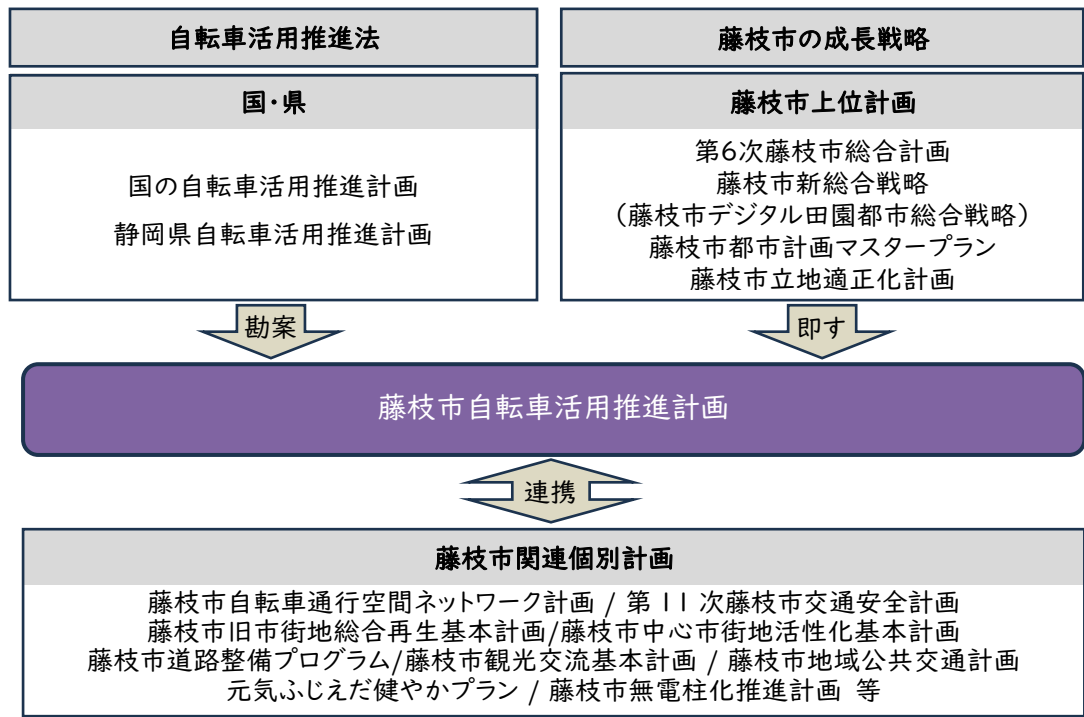
3.計画の期間

計画期間は、国や県の自転車活用推進計画との整合を図り、令和7年度（2025 年 4 月）から 令和 14 年度（2033 年 3 月）までの8年間とします。なお、社会情勢の変化や上位計画等の策定(改定)などを踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

	計画期間(年度)									
	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	
国の自転車活用推進計画	第2次推進計画		第3次推進計画(想定)							
静岡県自転車活用推進計画	第2次推進計画			第3次推進計画(想定)						
藤枝市自転車活用推進計画		藤枝市自転車活用推進計画								

4.計画の位置付け

本計画は、国や県の自転車活用推進計画を勘案し、本市の総合計画をはじめとした上位計画に即すものとしします。また、藤枝市自転車通行空間ネットワーク計画等の関連個別計画と連携を図ります。



図表 1-1 上位計画・関連計画との位置付け

5.自転車活用のメリット

自転車は、身近な移動手段であるとともに、下記のとおり各主体で様々なメリットがあります。

①自転車利用者のメリット

メリットの視点	メリット内容の例
健康	健康の維持 健康寿命の延伸
交通	渋滞回避による目的地への定時性 駐車場確保の回避
経済	車両の維持費やガソリン、駐車料金等の低減

②企業や集客施設のメリット

メリットの視点	メリット内容の例
健康	社員の心身の健康増進
経済	車両通勤や来訪者のための駐車場の土地、維持費の低減 社員の健康増進による健康保険料の低減 車両による周辺地域への負担軽減 通勤手当費用の低減
社会	環境にやさしい等企業イメージの向上

③地域や自治体のメリット

メリットの視点	メリット内容の例
環境	公害（排気ガス、騒音等）の減少 地球環境に対する負荷の軽減、資源の節約
交通	車両の交通量の減少による渋滞緩和
経済	車両の減少や渋滞緩和による道路維持費低減 健康増進や公害減少による経済負担の低減 市民の医療健康系予算の低減

（参考：国土交通省 国土交通政策研究所『都市交通における自転車利用のあり方に関する研究』）

6. 藤枝版ローカル SDGs との関係性

SDGsは、環境や健康、持続可能な消費など、世界の様々な問題を 2030 年までに解決するための国際的な開発目標です。国際社会の共通目標である SDGs の実現に寄与するため、本市として取り組むべき目標を、藤枝版ローカル SDGs（本市独自の 17 の目標）として設定し、持続可能なまちづくりの推進により、目標の達成を目指します。



【本計画に関連の深い主なもの】

藤枝版 SDGs	計画との主な関わり
3 誰もが健康で元気なまちをつくる	・自転車の活用や自動車からの転換による健康的な生活の確保
4 質の高い教育と学び続けられる環境をつくる	・自転車に関する各種情報発信や交通安全教育等の実施

藤枝版 SDGs	計画との主な関わり
13 地球温暖化対策を推進する	・自転車利用による環境負荷の低減
17 あらゆる主体が協働・協奏するまちをつくる	・市民参加や関係機関との連携等による自転車の活用